

# さようなら原発 越谷連絡会

会報 No.53

●発行 さようなら原発越谷連絡会 編集委員会

●連絡先 〒343-0023 越谷市東越谷 1-5-17 TEL&FAX 048-962-8052 <http://sayonarakoshi.jfmndo.com/>

- さようなら原発越谷連絡会は、再稼働反対国会前抗議行動（毎金曜日）と、第3金曜日には、越谷独自の集会和パレードを行っています。
- 第3を除く金曜日は新越谷駅上りホーム後方（越谷駅寄り）に、17時集合・出発しています。
- 独自に国会前に向かわれた場合は、国会正門から見て左側歩道の国会に近い場所を定位位置にしています。

- 第3金曜日の越谷独自行動（3金脱原発越谷行動）は、越谷駅東口駅前広場に18時集合・開始で、どなたでも発言自由のアピールタイム、歌や楽器でのアピールもOKです。このうち、越谷駅までもどる周回パレードをしています。誰でも、どなたでも参加していただける集会・パレードです。ぜひ、ご参加ください。
- お問い合わせは080-1229-3661(飛山)/080-5670-7117(増田)/090-4010-1334(石山) まで



雨の中、集会の準備。雨ではありません。

▶9月の3金行動の参加者は53人、10月は35人でした。▶10月は3金集会前に雨。集会の時間を短縮、小雨をついてのパレードに移りました。それでもいつも通り、元気にコースを一周▶「3金行動」の成功として取り纏められたものではありませんが、集会前に50人ほどが集まって、駅前で「選挙にいこう」のデモ

シ取り、プラカード掲示などを行なっていました。こちらから3金集会に参加した人も何人か。▶今回は福島レポートが2本。パレード後の「反省会」で、福島の現状・現状を知るには、何より現地の現状を見て、地元の方の話を聞くのが一番という話が出ました。▶34名参加！老人クラブの行進力、「見聞」に敬服。

**3金集会の集  
合場所は越谷  
駅東口駅前広  
場。午後6時。**

## 福島県「あれから6年の今を見に行こう」を実施して 浪江町

増林地区老人クラブ連合会研修旅行（9月7日～8日）

老人クラブ活動は地域貢献度の高い公園清掃・花壇管理・児童の登下校の見守り等と親睦性の高い演奏大会・新年会・忘年会・誕生会など多岐にわたっています。脳年齢の低下には「人と人との交わり」が大切なことですから、地域の運動会・お祭などにも関心を持ち積極的に参加するようにしてきました。

もう一つ心掛けている事は、高齢化が進むと世の中の動きにだんだんと関心を示さなくなり「もう私はいいや」と曰ころの不満や不安に対してもあきらめたり、受け流したりしがちで、特に政治には関わりを持たない人が多く見受けられます。そこで大きな社会問題等を実生活に結び付け考えていけるよう、機会あるたびに提案し発信して行くことを私なりに続けてきました。

今回、恒例のお年寄りの大好きな温泉旅行に、前述のような課題をもった研修をどうにかして加えたいと思いを巡らせていましたところ、避難者の一人である石上氏（あゆみの会会長・浪江町復興支援員）の協力と浪江町役場ができてだけ多くの皆さんに浪江町の現状を知ってもらいたいという取り組みを始めたことが合わさって有意義な研修旅行が実現の運びとなりました。

越谷市は福島原発事故の避難者が県内で一番多く増林地区は市内で特に多いこともあり、「浪江町を中心とする原発事故の現状を見に行こう」という研修旅行の案内を出したところ、34名という多くの参加を得ることが出来ました。

天気予報では雨模様でしたが、9月7日早朝、バスは福島に向けて出発しました。

原発事故に対して深く関心を持つ人、温泉や宴会、友人との語り合い等を楽しみにする人それぞれですが、平均年齢76歳の老人を乗せてバスが福島県に入っていくと、高速道路上の放射線量表示板が町ごとに現れてきました。特に大鷹町あたりでは高い線量が表示され、バスの中には緊張感や恐怖感が漂い始めました。「バスの中は大丈夫だろうね」と冗談とも本気とも取れない言葉があちこちで発せられ、改めてまだまだ原発事故は何も解決されていないの

だと身をもって思い知らされました。

役場の方から説明を受けながら浪江町を一周して見学を終え、最後に参加者一人一人に感想を述べてもらいましたが「見ると聞くとは大違い」との声が全員から聞かれました。

「原発事故は自然災害ではなく、人災だと思った」「もつとちゃんと今の状況を国民に伝え、二度このような事故が起こらないようにしてもらいたい」

「素晴らしい家があってもそこに帰ってこられない。町に子供が一人もいない。いるのは作業員ばかりだ。原発の恐ろしさを身をもって体験した」

「高張道路で、双葉町の線量が急に高くなったことに恐怖を感じた」などの意見が次々と出されました。

道路や建物整備されつつある中で、人がほとんどいないという現実を見ると、復興という言葉がほど遠く感じられ、むしろますます家々を感ずりました。このような重大事故が起きた時、当の住民には何も知らされず、テレビからの情報によって現場も避難指令を出したということも初めて知り、国民の命など自分たちの利益の前には虫けら同然なのだ強い怒りを覚えました。震災の被害者だけだったらと改めて東電、国の責任を強く思わずにはいられません。今回の衆議院選で福島復興についてほとんど語られることがなかったのが特に残念です。

いつまでも福島を忘れないよう、老人ではあっても原発事故に関心をもって会員とともに再度浪江町を訪問し、本当に復興がなるのかをこれからも注視していきたいと思っています。



浪江町役場で

（増林地区老人クラブ連合会会長 葛西久美子）



# 福島原発汚染ツアー」に参加して 大きな刺激を受けました

「これだけ原発」を3金集めて買い替けてもう1年。これでいいのかわからない時に、福島原発ツアーのことを聞き、あとさき考えず応募してしまいました。

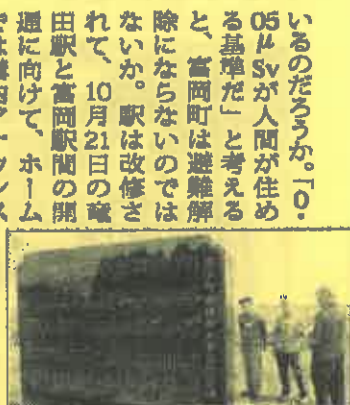
●1日目 命懸け分けたのは 美空ひばりの歌で有名な塩屋町。売店に入ると津波の後の写真がありました。高台にあった40年近くになる売店は岬のおかげで流されずすみ、そこからほんのわずかの距離にあった住宅街は跡形もなく流されてしまった写真でした。塩屋町からしばらく行くと久之浜。小高いところにあった地域の神社だけが津波に流されず、赤い鳥居が立っています。土地の人はなんで神社だけが残されちゃったんかね」と声を小さくして言います。「でも、遺骨は同じ場所に流されていて、



最後指一本まで見つけ、全員見つけられた」と。塩屋町から久之浜にかけて海が見えないほどの高い堤防が続いています。「いわき七浜」と言っていたが、今は浜がなくなり「いわき三浜」になってしまったそうです。久之浜の仮設店舗「浜風商店街」で、近くの旅館の女将が出すカフェに入り、話を聞くと「いわきは原発の影響が少なく、植葉町の人たちに申し訳ない」と漏らしていました。旅館の運営もままならないはずですが。

●2日目 放射線、測々と地盤についてく。8時45分 いわき湯本を出発すると、案内人の秋山さんから放射線量が早速伝えられて来た。「線量0.1μSvです」。いわきを出ると広野町では線量が上がった(0.14μSv)。富岡町付近を過ると二輪車通行不可の看板がたてられていた。(バイクが走れないくらい線量が高いのか) 9時43分 常磐富岡では(1.5μSv)に上がった。一般道に降りると白いスクリーニングの建物がいくつも目に入ってきた。テレビで見かける白い防護服を着ている方たちが出入りしている。作業員の方か。被ばくは大丈夫だろうか。スクリーニングってどうやるのか? 夜ノ森では、一部解除された区画以外はバリケードで封鎖されていた。機並木も人の手が入らず朽ちかけている。警備の方が微動だにせず立っている。放射線が降り注いでいる中で、パトカーが赤いランプを回してパトロールして来る。

●3日目 視察に参加して刺激を受けました。一緒に参加した方々が地元の人に話しかける姿勢には、学ぶところが大きいにありました。案内人の秋山さんは遠一機帯で情報を提供してくれました。貴重な情報源でした。伊東達也さん。お酒の入った懇談会でしたが、最終車きりぎりまで原発訴訟の話、訴訟原告団長でしか話せないようなことを、誠実に丁寧に話してくれました。秋山さん、伊東さんに貴重な資料をいただいているのでこれから読んでみたいと思います。歌も積極的に歌える気がしてきました。(川上尊)



津波被害者の慰霊碑 (海江町戸戸)



富岡町の海側に造られた処理施設

●4日目 視察に参加して刺激を受けました。一緒に参加した方々が地元の人に話しかける姿勢には、学ぶところが大きいにありました。案内人の秋山さんは遠一機帯で情報を提供してくれました。貴重な情報源でした。伊東達也さん。お酒の入った懇談会でしたが、最終車きりぎりまで原発訴訟の話、訴訟原告団長でしか話せないようなことを、誠実に丁寧に話してくれました。秋山さん、伊東さんに貴重な資料をいただいているのでこれから読んでみたいと思います。歌も積極的に歌える気がしてきました。(川上尊)

●5日目 視察に参加して刺激を受けました。一緒に参加した方々が地元の人に話しかける姿勢には、学ぶところが大きいにありました。案内人の秋山さんは遠一機帯で情報を提供してくれました。貴重な情報源でした。伊東達也さん。お酒の入った懇談会でしたが、最終車きりぎりまで原発訴訟の話、訴訟原告団長でしか話せないようなことを、誠実に丁寧に話してくれました。秋山さん、伊東さんに貴重な資料をいただいているのでこれから読んでみたいと思います。歌も積極的に歌える気がしてきました。(川上尊)

●6日目 視察に参加して刺激を受けました。一緒に参加した方々が地元の人に話しかける姿勢には、学ぶところが大きいにありました。案内人の秋山さんは遠一機帯で情報を提供してくれました。貴重な情報源でした。伊東達也さん。お酒の入った懇談会でしたが、最終車きりぎりまで原発訴訟の話、訴訟原告団長でしか話せないようなことを、誠実に丁寧に話してくれました。秋山さん、伊東さんに貴重な資料をいただいているのでこれから読んでみたいと思います。歌も積極的に歌える気がしてきました。(川上尊)

●7日目 視察に参加して刺激を受けました。一緒に参加した方々が地元の人に話しかける姿勢には、学ぶところが大きいにありました。案内人の秋山さんは遠一機帯で情報を提供してくれました。貴重な情報源でした。伊東達也さん。お酒の入った懇談会でしたが、最終車きりぎりまで原発訴訟の話、訴訟原告団長でしか話せないようなことを、誠実に丁寧に話してくれました。秋山さん、伊東さんに貴重な資料をいただいているのでこれから読んでみたいと思います。歌も積極的に歌える気がしてきました。(川上尊)